

### 第1学年 算数科学習指導案

令和元年10月30日(水) 5校時  
1年 児童数 6名  
場 所 1年教室  
指導者 松浦 愛

- 1 単元名 「たしざん」
- 2 本単元で付けたい資質・能力
  - (1) 単元の系統性

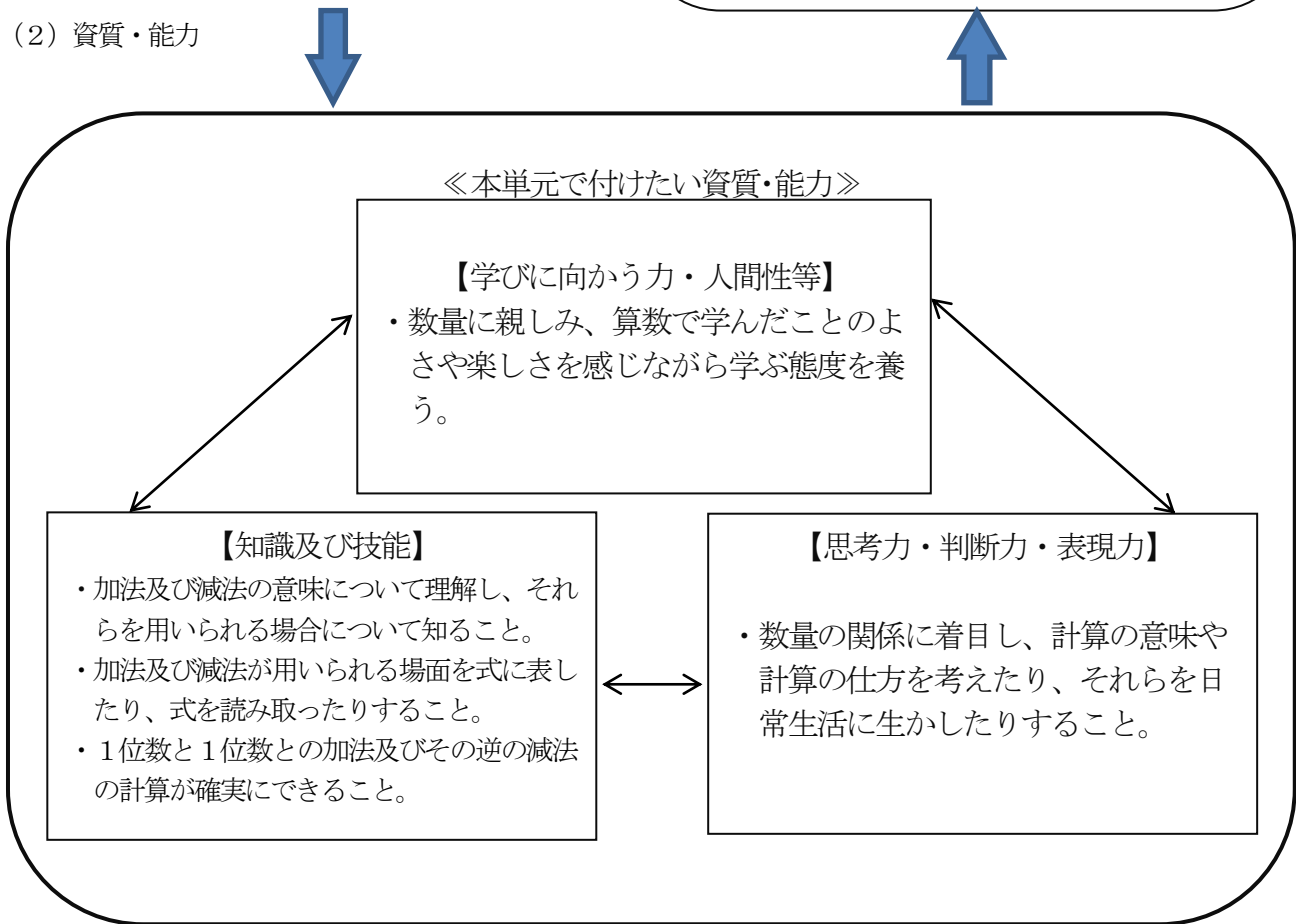
《これまでの関連単元》

- 「いくつといくつ」(1学年)
  - ・10までの数の構成
- 「あわせていくつ ふえるといくつ」(1学年)
  - ・加法の意味(合併・増加)
- 「10よりおおきいかず」(1学年)
  - ・ $10+5$ 、 $12+3$ など
- 「3つのかずのけいさん」(1学年)
  - ・3口の加法、減法

《これからの関連単元》

- 「おおきいかず」(1学年)
  - ・ $50+20$ 、 $30+5$ 、 $25+3$ など
- 「ずをつかってかんがえよう」(1学年)
  - ・順序数の加法・異種量の加法・求大
- 「たし算のひっ算」(2学年)
  - ・2位数+1、2位数=2位数・加法の筆算形式
- 「3けたの数」(2学年)
  - ・数の構成に基づく加法計算
- 「たし算とひき算のひっ算」(2学年)
  - ・2位数+1、2位数=3位数
- 「たし算とひっ算」(2学年)
  - ・減法逆の加法

- (2) 資質・能力



### 3 児童の実態

#### (1) 実態

本学級の児童は、全体的に真面目に学習課題に取り組むことができる。しかし、問題を読み取ることに時間がかかったり、自分の考えを伝える時に消極的になったりする児童も見られる。1学期から算数ブロックや図を使い説明する活動を繰り返し取り入れることで少しずつ話す力もつきつつある。

本単元のレディネステストでは、計算は概ねできているものの数の合成と分解の言葉による説明につまずきが見られた。数の合成と分解は、さくらんぼ計算で必要な力となるので、算数ブロック操作など繰り返し習熟を図っていく必要がある。たし算の仕方を説明したり、説明を書かせたりする活動も繰り返し取り入れながら学習していくようにする。

#### (2) 実態に応じた支援・手立ての工夫

本単元で扱う加法計算は、具体的な事柄を基にしなが、加法が用いられる場合や加法の意味について理解する。また、1位数どうしの加法計算について、その計算の仕方を考えて説明ができるようにし、その計算が確実にできるようにするとともに、日常生活や学習の中で活用できることをねらいとしている。

そこで、単元の導入では、算数ブロックを操作することで、繰り上がりのあるたしざんの仕方を具体的に考えることができるようにする。算数ブロックを動かしながら、数の分解と合成を考え、計算の仕方を説明し、式にさくらんぼ計算を書いていくというように段階的に進めていく。その際、10の補数をとらえること、被加数か加数のどちらかの数に着目し、「10のまとまり」をつくることを意識させる。

また、学び合いでは自分の考えを表現し伝え合うために順序立てて説明できるようにする。算数ブロック操作や図を使いながら説明する活動を繰り返しさせることにより、「10のまとまり」をつくることを意識して、さくらんぼ計算を用いて説明できるようにする。

説明が苦手な児童の手立てとしては、「□はあと○で10になる」という話型を繰り返し使うことで、順序立てて説明することができるようにする。

1位数どうしの加法計算の仕方には、加数分解と被加数分解があるが、いずれの場合も「10のまとまり」をつくることに着目させることで、「10といくつ」と考える繰り上がりのある加法計算の仕方を児童自ら作り出すことができるようにしたい。

本時では、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法があることを知り、計算の仕方について説明する。算数ブロックによる操作で計算のしかたを考えることで計算の仕方についての理解を一層深めることが大切であり、形式的な計算指導に陥らないように配慮する。10のまとまりをつくることに着目して計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明することができるようにしたい。

### 4 単元の評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
・既習の加減計算や数の構成を基に、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考えようとしている。	・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて表現したり工夫したりしている。	・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできる。	・10のまとまりに着目することで、繰り上がりのある加法計算ができることを理解している。

### 5 単元構想

#### (1) 本単元で働かせる数学的な「見方・考え方」

- ・和が10より大きい数になる加法の場合、被加数か加数のどちらかの数に着目し、「10はあといくつ」という数の見方を活用し、「10のまとまり」をつくり、「10といくつ」と考えることによって1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を筋道立てて考える。

#### (2) 本単元の「数学的活動」

- ・具体的な場面に基づいて、数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を具体物、算数ブロックを用いて考える。
- ・具体物や算数ブロックなどの半具体物を用いた操作を通して、既習の数の見方や計算の仕方を活用し、計算の仕方を見つけ出す。

#### (3) 本単元を通して付けたい資質・能力へのアプローチ

- ・具体物、算数ブロックなどの半具体物を操作することで、計算の仕方の理解を確実にするとともに、計算に

- 習熟し、活用できるようにする。
- 既習事項を基に見通しを立てさせていく。

(4) 本単元の展開・評価計画 (全13時間)

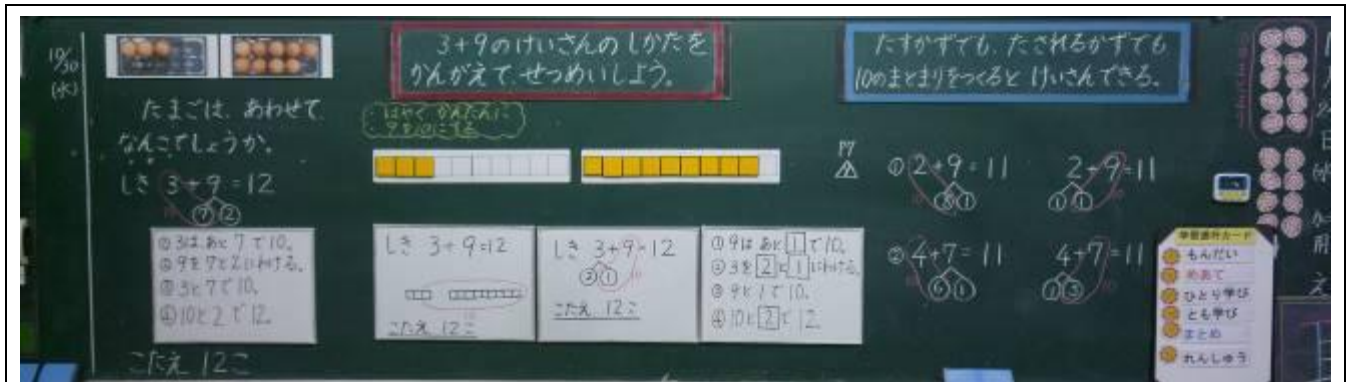
次	学習内容	評価				
		関	考	技	知	
第一次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P2の絵を見て、1位数どうしの加法の式を考え、未習の計算に関心をもつ。</li> <li>・9+4の計算の仕方を考える。</li> </ul>	◎	○			<b>【関】</b> 既習の加減計算や数の構成を基に、9+4などの計算の仕方を考えようとしている。(観察、発言) <b>【考】</b> 9+4などの計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて説明することができる。(発言、ノート)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加数分解による計算方法をまとめる。</li> <li>・加数分解の方法で9+3の計算をする。</li> </ul>	○	◎			<b>【考】</b> 9+4などの計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて説明することができる。(発言、ノート) <b>【関】</b> 既習の加減計算や数の構成を基に9+4などの計算の仕方を考えようとしている。(観察、発言)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被加数が8の場合の計算の仕方を考える。</li> <li>・加数分解すると、10のまとまりがつくりやすいことについてまとめる。</li> </ul>			○	◎	<b>【知】</b> 被加数が8~5の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。(観察、ノート) <b>【技】</b> 加数分解による計算が確実にできる。(発言、ノート)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被加数が9、8の場合の計算練習に取り組む。</li> </ul>			○	◎	<b>【知】</b> 被加数が8~5の場合でも10のまとまりをつくれればよいことを理解している。(発言、ノート) <b>【技】</b> 加数分解による計算が確実にできる。(発言、ノート)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被加数が7の場合の計算の仕方を考える。</li> <li>・計算練習に取り組む。</li> </ul>			◎	○	<b>【技】</b> 加数分解による計算が確実にできる。(発言、ノート) <b>【知】</b> 被加数が8~5の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。(発言、ノート)
第二次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面から加法であると判断して、立式する。</li> <li>・3+9の計算の仕方を考える。</li> <li>・被加数を分解した方が10のまとまりをつくりやすい場合もあることをまとめる。 本時</li> </ul>		◎			<b>【考】</b> 被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりをつくることに着目して計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。(発言、ノート) <b>【知】</b> 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算は、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。(発言、ノート)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算練習に取り組む。</li> <li>・文章問題を解決する。</li> </ul>		○		◎	<b>【知】</b> 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算は、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。(発言、ノート) <b>【考】</b> 被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりをつくることに着目して計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。(観察、発言)
第三次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算カードを用いたいろいろな活動を通して、繰り上がりのある1位数どうしの加法計算の練習をする。(5時間)</li> </ul>			◎		<b>【技】</b> 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできる。(観察、発言、ノート)
第四次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しあげ」に取り組む。</li> </ul>	○			◎	<b>【知】</b> 基本的な学習内容を身につけている。(観察、ノート) <b>【関】</b> 自分で問題作りに挑戦しようとしている。(観察、ノート)

6 本時の学習

(1) 目標・評価規準

本時の目標	1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。
本時の評価規準	<p>【考】被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりをつくることに着目して計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。</p> <p>【知】1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算は、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。</p>

(2) 展開



	導入	展開	まとめ
<p>学習活動(番号)</p> <p>発問(○)</p> <p>児童の反応(・)</p> <p>留意点(☆)</p> <p>評価(※)</p>	<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <p>○どんな式になるかな。</p> <p>・3+9</p> <p>○今までのやり方で計算することはできるかな。</p> <p>・10のまとまりをついたらできる。</p> <p>・3はあと7で10。</p> <p>☆既習内容の確認をする。</p> <p>○もっと早く簡単に10をつくることはできないかな。</p> <p>・9はあと1で10。</p> <p>☆10のまとまりをつくと計算できるという見通しを持たせる。</p> <p>2 めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>3+9のけいさんのしかたをかんがえて、せつめいしよう。</p> </div>	<p>3 自分の考えをノートに書き、発表する。</p> <p>(1)ひとり学び</p> <p>・3を2と1に分ける。(被加数分解)</p> <p>・ブロックで10のまとまりをつくってみよう。</p> <p>・図でかいてみよう。</p> <p>☆9を10にすることができるか確認する。 ※評価←【考】</p> <p>(2)とも学び</p> <p>○自分の考えを友だちに説明しよう。(被加数分解)</p> <p>①9はあと1で10。</p> <p>②3を2と1に分ける。</p> <p>③9に1をたして10。</p> <p>④10と2で12。</p> <p>○みんなの考えで同じところはあるかな。</p> <p>・10のまとまりをつくっている。</p> <p>☆10のまとまりに印をつけ、どちらも10のまとまりをつくっているという考えが共通していることに気づかせる。</p>	<p>4 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>たすかずでも、たされるかずでも10のまとまりをつくとけいさんできる。</p> </div> <p>5 適用問題に取り組む。</p> <p>○練習問題に挑戦しましょう。</p> <p>教科書P7の9</p> <p>※評価→【知】</p> <p>6 次時の予告をする。</p> <p>☆予告の際、予習のポイントを伝える。</p>

(3) 準備物 掲示物、算数ブロック

## 事後研

### ○授業者より

- ・昨日、 $5 + 7$ の学習をした時に被加数分解をすることができている児童がいた。
- ・10のまとまりをたされる数でつくる方法が子どもたちの中にあり、なかなかたす数で10をつくることができなかった。
- ・今までに習っている加数分解がしっかりできるようになった分、今日の被加数分解が「早くて簡単」な方法とはならなかった。

### ○参観者より

- ・たまごの写真掲示が上から写した写真でわかりやすかった。
- ・構造的な板書ができている。
- ・既習事項がしっかりと理解されている。
- ・「算数用語を使って」「説明を文章で書く」ことが大切である。
- ・ブロック操作とさくらんぼとが結び付きにくい。
- ・「分からん」と言えることが大事。
- ・丁寧に解決していった分、明日につながる。
- ・ブロック、図、さくらんぼ、文章を日々取り入れていることがわかった。
- ・具体物を使うことで10のまとまりをつくる操作はできたか、さくらんぼ計算に結び付けることが難しかった。

### ○協議

- ・頭の中では計算できるのに、さくらんぼ計算が難しい。さくらんぼ計算が分からなくて、算数嫌いになる子もいるそうである。
- ・繰り返し学習していくことで、できていく。
- ・1年生では段階をおって、丁寧に教えていくことが大事。
- ・焦らないで、次時の練習で理解できていく。

### ○協力者より

- ・45分で完結するために、発問、掲示物、展開等の工夫が必要。
- ・家庭学習のサイクル化に向けて、予習のポイントを書かせるようにする。

# 第2学年 算数科学習指導案

令和元年10月30日(水) 5校時  
2年 児童数 12名  
場 所 2年教室  
指導者 熊谷 久美子

1 単元名 「新しい計算を考えよう」

2 本単元で付けたい資質・能力

(1) 単元の系統性

《これまでの関連単元》

「10よりおおきいかず」(1学年)

「おおきいかず」(1学年)

- ・2ずつ、5ずつまとめて数えること
- ・数の構成に基づく数の数え方

《これからの関連単元》

「かけ算」(3学年)

- ・分配法則、交換法則の活用  $a \times b$   $b \times a$   $0$ のかけ算

「わり算」(3学年)

- ・除法の意味と記号  $\cdot$ 九九1回適用の除法

「かけ算の筆算」(1)(3学年)

- ・何十、何百 $\times$ 1位数の計算 $\cdot$ 2, 3位数 $\times$ 1位数の計算
- ・結合法則  $\cdot$ 倍の計算(第一、第二用法)

「かけ算の筆算」(2)(3学年)

- ・1, 2位数 $\times$ の計算 $\cdot$ 2, 3位数 $\times$ 2位数の計算
- ・乗法計算の工夫  $\cdot$ 倍の計算(第三用法)
- ・2, 3位数 $\times$ 1位数の計算

(2) 資質・能力

《本単元で付けたい資質・能力》

【学びに向かう力・人間性等】

- ・数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【知識及び技能】

- ・乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。
- ・乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
- ・乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。
- ・乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算を確実にできること。
- ・簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を知ること。

【思考力・判断力・表現力】

- ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること
- ・数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。

### 3 児童の実態

#### (1) 実態

本学級の児童は、全体的に元気で明るく学習意欲もある。しかし、中には理解に時間がかかりかかったり、集中が切れてしまったりする児童もいる。そこで、机間巡視や声かけを常に意識して行い、授業後にはノート点検を行って理解を図っている。今年度の標準学力調査において算数の平均正答率は、86.5%で、全国平均(84.8%)よりやや上回り、「数と計算」の領域でも4%上回っていた。レディネステストでは全問正解は12人中9人で殆どできていたが、10とび、5とび、2とびなどの数の系列でつまずきが見られた。

そこで、これまでの算数科の授業では、問題提示でイメージを膨らませ見通しを持たせる時間を多くとり、本時のめあてを明確におさえ各自が自分の考えをしっかりと持てるように配慮している。ただ自分の考えに自信のない児童や、理解が難しい児童もいるため、ヒントカードを活用したり、ペア学習やグループ学習を多く設定したりして相手に分かるような説明ができるように指導している。なお授業だけではなく、自主学習での予習復習の奨励や放課後の補習にも取り組んでいる。

#### (2) 実態に応じた支援・手立ての工夫

本単元では、乗法が用いられる実際の場面を通して、乗数の意味について理解できるように指導する。また、この意味に基づいて乗法九九を構成したり、その過程で乗法九九について成り立つ性質に着目したりするなどして、乗法九九を身に付け、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできるようにするとともに、計算を生活や学習に活用する態度を養うことをねらいとしている。そこで、乗法の意味を理解し、九九の構成を調べる活動を多く取り入れ実感的に思考できるようにしていく。そして、とも学びでは、分かったことを自分の言葉で相手に分かりやすく言語活動ができるように支援していく。

本時では、「1つ分の数」にあたるものを確認し、それを基に「いくつ分」を考えることで乗法の式を立式させる。これにより、全体の数を「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえる乗法的な見方について見直すことができ、乗法の意味の理解がより深まることをねらいとしている。そして、式に合うように文章を完成させて問題をつくる活動を通して、文章から立式するだけでなく、式を読む活動を繰り返すことにより、式から文章へ、文章から式へ自由にいたりきたりできる力を育成していきたい。

### 4 単元の評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技 能	数量や図形についての知 識・理解
・乗法よさに気づき、ものの全体の個数をとらえるときに乗法を用いようとしている。	・累加の考えや乗数と積の関係などを基に、乗法九九の構成の仕方や表現を考えている。	・乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表すことができる。 ・乗法九九(5, 2, 3, 4の段)を構成し、確実に唱えることができる。	・乗法が用いられる場合や乗法九九について知り、乗法の意味について理解している。 ・乗法に関して成り立つ性質(乗数が1増えるときの積の増え方や交換法則)を理解している。

### 5 単元構想

#### (1) 本単元で働かせる数学的な「見方・考え方」

・数の表し方の仕組みや数量の関係や問題場面の数量の関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考えたり、統合的・発展的に考えたりする。

#### (2) 本単元の「数学的活動」

・乗法が用いられる実際の場面を通して乗法の意味について理解し、その意味を基に乗法九九を構成したり、成り立つ性質に着目したりするなどして乗法九九を身に付ける。  
・乗法に関する用語や概念を、様々な操作活動を通し実感をもって考えるようにする。

#### (3) 本単元を通して付けたい資質・能力へのアプローチ

・乗法九九を構成する要素などに着目して九九の性質を考察し、いろいろな段の九九を考えられるようにする。  
・既習事項を基に見通しをもって考えさせていく。

(4) 本単元の展開・評価計画 (全23時間)

次	学習内容	評価				
		関	考	技	知	
第一次 かけ算	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「1つ分の数」「いくつ分」ととらえるようにする。</li> <li>・プロローグ</li> <li>・絵を見て、それぞれの乗り物に乗っている子ども的人数を調べる。</li> <li>・数量を「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえる。</li> </ul>	◎				<p>【関】 ものの全体の個数を「1つ分の数」のいくつ分」ととらえるとよいことに気づき、数えようとしている。 (観察・発言)</p> <p>【考】 数量を「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえ、説明している。 (観察、発言、ノート)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「1つ分の数」と「いくつ分」の関係の場合に乘法が用いられることを知り、乗法の意味を理解する。</li> <li>・絵やおはじきを使って、全体の人数の求め方を言葉で説明する。</li> <li>・<math>5 \times 3 = 15</math> の意味を知る。</li> <li>・用語「かけ算」や記号「<math>\times</math>」を知る。</li> </ul>			◎		<p>【技】 具体物のまとまりに着目して乗法の式に表すことができる。 (観察、発言、ノート)</p> <p>○ 【知】 乗法は、1つ分の数の大きさが決まっているとき、そのいくつ分かにあたる大きさを求める場合に用いられることを理解している。 (発言、ノート)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵や写真を見て、乗法の式に表す。</li> </ul>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乗法の場合をおはじきや式で表す活動を通して、乗法の意味の理解を確実にする。</li> </ul>			◎		<p>【技】 乗法が用いられる場合をおはじきや式で表すことができる。 (観察、発言、ノート)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乗法の答えは被乗法を乗数も数だけ累加して求められることを理解する。</li> <li>・問題場面から数量の関係をとりえ、立式や答えの求め方について考える。</li> </ul>				◎	<p>【知】 乗法の答えは、被乗法を乗数の数だけ累加して求められることを理解している。 (観察、発言、ノート)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求められる場面を見出し、簡潔に表現できることよさを実感する。</li> <li>・3cmの2つ分を3cmの「2ばい」</li> <li>・<math>3 \times 2</math> と乗法の式で表す。</li> </ul>				◎	<p>【知】 倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときも乗法を用いることを理解している。 (発言、ノート)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身の回りから、乗法で全体の個数を求められる場面を見出し、簡潔に表現できることよさを実感する。</li> <li>・「1つ分の数」<math>\times</math>「いくつ分」=「全体の数」を基に説明する。</li> </ul>		◎			<p>【考】 身の回りから、乗法が用いられる場面を見出し、言葉や式で説明している。 (観察、発言、ノート)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容を適用して問題を解決する。</li> <li>・力をつける問題に取り組む。</li> </ul>			◎		<p>【技】 学習内容を適用して、問題を解決することができる。 (発言・ノート)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○5の段の九九の構成の仕方を理解する。</li> </ul>			◎		<p>【技】 5の段の九九を構成することができる。 (観察・発言)</p>	



第二次 5の段 の だ ん ・ 2 の だ ん の 九 九	○5の段の九九を確実に唱え、適応することができる。 ・用語「九九」を知る。 ・5の段の九九の答えは5ずつ増えていることを確認する。		◎		【技】5の段の九九を確実に唱えることができ、それをういて問題を解決することができる。(観察・発言・ノート)
	○2の段の九九の構成の仕方を理解する。 ・累加や2とび、アレイ図などを用いて2の段の九九を構成する。		◎	○	【考】5の段の九九の構成の仕方を基に、2の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。(発言・ノート) 【技】2の段の九九を構成することができる。(発言・ノート)
	○2の段の九九を確実に唱え、適応することができる。 ・2の段の九九の答えは2ずつ増えていることを確認する。 ・2の段の九九を用いて問題を解決する。		◎		【技】2の段の九九を確実に唱えることができ、それをういて問題を解決することができる。(観察・発言・ノート)
第二次 3の段 の だ ん ・ 4 の だ ん の 九 九	○3の段の九九の構成の仕方を理解する。 ・ $3 \times 4$ の答えにいくつたせば $3 \times 5$ になるかを考える。 ・3の段を構成する。 ・用語「かけられる数」「かける数」を知る。		◎	○	【考】乗法について成り立つ性質を用いて、3の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。(観察・発言・ノート) 【技】3の段の九九を構成することができる。(発言・ノート)
	○3の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 ・3の段の答えは、乗数が1増えると3増えることを確認する。 ・3の段の九九を用いて問題を解決する。		◎		【技】3の段の九九を確実に唱えることができ、それをういて問題を解決することができる。(観察・発言・ノート)
	○4の段の九九の構成の仕方を理解する。 ・ $4 \times 5$ のかける数が1増えると答えは4増えることを活用して、4の段の九九を構成する。		◎	○	【考】乗法について成り立つ性質を用いて、4の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。(発言・ノート) 【技】4の段の九九を構成することができる。(観察・発言・ノート)
	○4の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 ・4の段の答えは、乗数が1増えると4増えることを確認する。 ・4の段の九九を用いて問題を解決する。			◎	【技】4の段の九九を確実に唱えることができ、それをういて問題を解決することができる。(観察・発言・ノート)
	○問題づくりによる式の読みや式に表現することを通して、5, 2, 3, 4の段の理解を深める。 ・ $2 \times 5 = 10$ $5 \times 2 = 10$ で表される問題の式と答えをそれぞれ考え、乗法の式の意味について理解を深める。(本時)		◎	○	【考】乗法の用いられる場面をとらえ、言葉や式で説明している。(観察・発言・ノート) 【知】被乗数、乗数の意味を解決している。(発言・ノート)
第四次まとめ	○学習内容を適用して問題を解決する。 ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 ・「しあげ」に取り組む。		◎		【技】学習内容を適用して、問題を解決することができる。(発言・ノート)

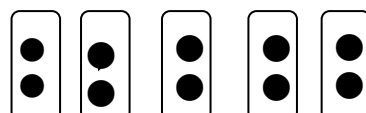
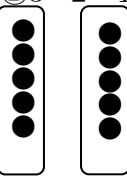
6 本時の学習

(1) 目標・評価規準

本時の目標	問題づくりによる、式の読みや式に表現することを通して、5, 2, 3, 4の段の理解を深める。
本時の評価規準	<p>【考】乗法の用いられる場面をとらえ、言葉や式で説明している。</p> <p>【知】被乗数、乗数の意味を解決している。</p> <p>(観察・発言・ノート)</p>

(2) 展開



	導入	展開	まとめ
<p>学習活動(番号) 発問(○) 児童の反応(・) 留意点(☆) 評価(※)</p>	<p>1 本時の学習課題をつかむ。 ☆前時までの九九をカードで唱えさせる。 ☆問題を提示する。</p> <p>①えんぴつを1人に2本ずつ5人にくばります。えんぴつはぜんぶで何本ありますか。</p> <p>②えんぴつを2人に5本ずつくばります。えんぴつはぜんぶで何本ありますか。</p> <p>2 めあてを確認する。</p> <p>2つのもんだいをくらべよう。</p> <p>3 問われていることのちがいを考える。</p> <p>○分かっていること、きかれていること、たんにいのはなにかな。</p> <p>○「1つ分の数」「いくつ分」はなにかな。</p> <p>☆見通しを持たせる。 ☆図にかくとわかりやすいことに気づかせる。</p>	<p>4 課題に取り組む。</p> <p>(1)ひとり学びを行う。</p> <p>・「1つ分の数」「いくつ分」をおさえて、式を書く。</p> <p>・図に表して考える。</p> <p>(2)とも学び行う。 〈ペア学習〉</p> <p>○自分の考えを友達に説明しよう。 ※相手に分かりやすく説明できるように支援する。 〈全体学習〉</p> <p>①<math>2 \times 5 = 10</math> 答え10本</p>  <p>1人分は2本 「2本ずつで5人分」</p> <p>②<math>5 \times 2 = 10</math> 答え10本</p>  <p>1人分は5本 「5本ずつで2人分」</p> <p>※評価【考】</p>	<p>5 まとめる。</p> <p>・かけ算のしきは「1つ分の数」と「いくつ分」を考えつつくる。</p> <p>・図にかくとわかりやすい。</p> <p>☆□で大切な言葉を入れながらまとめるようにする。</p> <p>6 適用問題に取り組む。</p> <p>p21 <math>\triangle 5</math></p> <p>○「1つ分の数」と「いくつ分」をおさえられたかな。</p> <p>☆<math>4 \times 3</math> <math>3 \times 4</math></p> <p>図にかいて説明できたかな</p> <p>☆問題と式を比べ「1つ分の数」と「いくつ分」を用語「かけられる数」「かける数」を使って説明させる。</p> <p>※評価【知】</p> <p>7 本時を振り返る ☆予習のポイントを伝える</p>

(3) 準備物 ワークシート おはじき (掲示用)

## 事後研

### ○授業者より

- ・高学年を担当していた時、くり上がり、くり下がり、九九ができていない子どもがいた。低学年の大切さを感じる。
- ・2年生の学習の難しさ、高学年につながることを通信等で知らせている。
- ・絵や図をかきながら考えるようにしている。
- ・一つ分といくつ分をおさえることを重視した。
- ・かけられる数とかける数をいれかえても答えは同じということが強く印象に残っている児童がいた。
- ・家庭学習と授業をリンクさせることの研究で、予習が増えてきた。「分かりやすい」と感じる子どもが増えた。家庭も協力的である。

### ○参観者より

- ・子どもたちと先生の意欲が高く、楽しい授業だった。
- ・1あたり量が分かりにくい子どもがいる。意味についてきちんと理解させることが大切である。
- ・学びを日常の中で使えるようにしたい。
- ・復習（昨日のふり返し）を子どもの言葉で言わせていた。
- ・問題をプリントにし、ノートに貼ることで時間短縮を図っていた。
- ・2つの問題を同時にやることで、図の違いもはっきりしていた。
- ・算数用語を使って、くり返し説明させていた。

### ○協力者より

- ・資質・能力ベースの授業づくりのための指導案になっている。
- ・ワークシートの工夫で書く力を伸ばす。